



稲作農家 各位

山武稲作情報 第5報

(2020年7月10日発行)

山武農業事務所 改良普及課
 電話 0475-54-0226
 FAX 0475-52-7914

山武地域の生育状況

4月下旬までに移植した「ふさおとめ」、「ふさこがね」は平年より3日前後早く出穂期になりました(表1)。「コシヒカリ」も間もなく出穂期となる見込みです(表1、表2)。一方、5月中旬に移植した「コシヒカリ」は現在、穂肥施用時期です。なお、穂肥を施用しても葉色が淡い傾向が見られますが、これは日照不足により肥料の吸収が緩慢なためです。今後、生育に伴って吸収が続くので、穂肥を施用したほ場(一発肥料を施用したほ場も含む)では追加の穂肥は必要ありません。

斑点米カメムシに関する情報が発表されています(病虫害発生予察注意報第1報を参照)。

表1 幼穂形成期、出穂期

品種	場所	年	移植日	幼穂形成期	出穂期(見込み)	
ふさおとめ	山武市 (成東育成地)	2020	4/24	6/12	7/7	
		2019	4/25	6/17	7/16	
		平年値	4/26	6/16	7/12	
	山武市 (白幡)	2020	4/29	6/18	7/10	
		2019	4/26	6/21	7/18	
		平年値	4/27	6/18	7/13	
ふさこがね	山武市 (成東育成地)	2020	4/24	6/15	7/10	
		2019	4/25	6/18	7/18	
		平年値	4/26	6/17	7/13	
	山武市 (井ノ内)	2020	5/2	6/20		
		2020年から新設のため平年値、前年値無し				
コシヒカリ	山武市 (成東育成地)	2020	4/24	6/20	(7/15)	
		2019	4/25	6/24	7/25	
		平年値	4/26	6/24	7/21	
	東金市 (幸田)	2020	5/2	6/26	(7/22)	
		2019	5/4	6/28	7/26	
		平年値	4/26	6/26	7/21	
粒すけ	山武市 (成東育成地)	2020	4/24	6/19	(7/14)	
		2019	4/25	6/30	7/26	
【飼料用米】						
アキヒカリ	山武市	2020	4/26	6/16	7/11	
夢あおば	山武市	2020	5/15	6/30	(7/20)	

作柄調査ほ等、平年値は過去10年(成東育成地は7年)間の平均

表2 山武地域における移植日ごとの出穂期予測

品種	ふさおとめ		ふさこがね			コシヒカリ			粒すけ		
	移植日	4/20	5/1	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1	5/15	4/20	5/1
出穂期	7/9	7/13	7/10	7/14	7/24	7/18	7/23	8/1	7/17	7/22	8/1

予測値は令和元年度試験研究成果普及情報の推定式により気温(アメダス横芝光)から計算して推定(「粒すけ」は調査ほ等の生育から推定)。移植時の苗の葉令、活着状況、ほ場ごとの気象条件、予測日以降の気象条件等による誤差あり。

これからの管理のポイント

○遅植え「コシヒカリ」の穂肥

5月中旬～下旬に植えた遅植え「コシヒカリ」は、移植直後から気温が高いため、過繁茂となり草丈が伸び、倒伏の危険性があります。慣行どおりの施肥を行うと倒伏し、品質も低下しやすいことから、下表のとおり移植時期に合わせた穂肥を施用しましょう。

5月15日植えの「コシヒカリ」は7月9日頃、5月下旬植えでは7月中旬頃に幼穂形成期（主茎の幼穂の長さが1mm）を迎えます。幼穂形成期から7～15日後（幼穂長1～8cm）に穂肥を施用します（表3）。幼穂形成期の茎数が過剰な場合や葉色が濃い場合は、施用時期を遅らせるか、無施用とします。

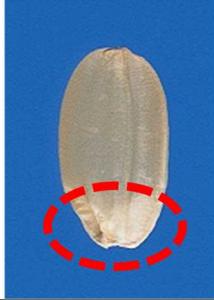
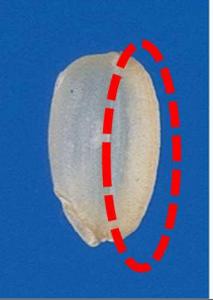
表3 遅植え「コシヒカリ」の穂肥の目安(10a当たり)

移植時期	土壌	窒素	加里
遅植え (5月中旬～下旬)	壤・粘質土	1.5kg	3kg
	砂質土	2～3kg	
慣行 (4月中旬～5月上旬)	壤・粘質土	3kg	3kg
	砂質土	3～4kg	

コラム⑤ 白未熟粒の種類による要因と対策

～白未熟粒の発生を抑えて、見た目よし、食べてよし、穫ってよしの米づくり～

白未熟粒（いわゆるシラタ）の発生要因は出穂期後の高温だけではありません。栽培条件にも要因があり、両方の要因が重なった場合に発生が多くなります。また、白色不透明部の発生位置により発生要因とその対策が異なります。白未熟粒はデンプンの詰まりが悪いため、発生要因に応じた対策を講じて発生を抑えることで外観と食味に優れた米を生産できます。また、登熟を高め、収量増加にもつながります。

		基白粒	背白粒	乳白粒	その他未熟粒
白色不透明部の位置 (点線囲み部分)					 扁平、深い縦溝
気象的要因	制御不可	<ul style="list-style-type: none"> 出穂期後約20日の高温（平均気温約27℃以上） 		<ul style="list-style-type: none"> 一時的な高温・乾燥風（台風後のフェーン等）による稲体水分の低下 	
栽培条件的要因	制御可	<ul style="list-style-type: none"> 窒素不足による出穂期後の葉色の低下（＝光合成能力の低下） 		<ul style="list-style-type: none"> 窒素過剰による籾数過剰や倒伏（＝籾当たりのデンプンの不足） 	
対策	↓ 発生の軽減が可能	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県に適した品種の作付 穂肥の適正な施用による出穂期後の葉色の維持 (一発肥料の場合は、品種に合った資材を適正量施用) 早期の落水の回避 		<ul style="list-style-type: none"> 適切な施肥設計と、茎数増加に応じた中干しの実施による穂数、籾数の適正化 中干しによる根張りの促進 受光態勢の改善による光合成の促進（第3報2ページを参照） 	

写真は農林水産省ホームページから。

次回の情報は7月29日（水）に発行する予定です。